

校長 久保田範夫

平成25年4月1日に着任しました。着任の挨拶を兼ねて、安積の近況を紹介いたします。

福島県田村市大越町出身、昭和47年に安積高校に入学した88期生で、1年の担任は竹花栄明先生、2、3年は吉田清蔵先生(安積54期で、お元気です)でした。その後、国語教師として昭和61年から平成8年度迄11年間、母校安積の教壇に立ちました。当時、恩師でもあった国語の長嶺力夫先生や吉田清蔵先生と一緒に緊張の日々を過ごしました。この間、野球部の第3顧問を務めるなどして、夏の大会前には仙台桑野会の方々に大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。その後、福島県教育庁に三度勤務し、学校経営支援課長(小・中・高校、特別支援学校の管理部門)として仕事をしていた中、東日本大震災が発生、警戒区域等の学校再開に努めるとともに、教育次長として県内外に避難生活を余儀なくされている幼・小・中・高・特別支援学校の園児・児童・生徒約一万四千人をいかにして福島県に戻ってもらうか、頭を痛めました。

生徒として、一教諭として、そして今回校長として母校安積に三回関わることでできる幸せをかみしめながら、高い志を持つ生徒達の夢を実現させるべく勤めているところです。共学化により男子校時代の「質実剛健」そのものの荒っぽさは無くなり、おとなしくなった感がありますが、男子、女子が共に切磋琢磨する自然な雰囲気ของ学部の苑となっています。

さて、昨年度、本校の部活動関係の活躍を紹介しますと、ハンドボール部女子が全国高校選抜大会に出場、ベスト8進出を成し遂げたのを始め、硬式テニス部が団体・ダブルス・シングルスでインターハイ全国大会に出場しました。

合唱部が全日本合唱コンクール全国大会で3年連続の金賞を受賞したほか、放送委員会がNHK全国放送コンテスト創作テレビドラマ部門で優良賞を受賞するなど、文化部も大活躍の年でした。

他に弓道部、ラグビー部、ゴルフ部や写真部、弦楽合奏部、化学・生物・地学部など、合わせて10に上る運動部・文化部が全国大会に進み、安積の名を全国に轟かせて文武両道を実践しています。

次に、平成24年度の大学合格状況について報告いたします。

まず、国公立大ですが、東京大は昨年37年ぶりに二桁10名の合格者を出しましたが、今回は3名(現役2)と振

るいませんでした。一方、京都大は昨年の2名から5名(現役4)に増え、東京工業大が3名(現役2)、北海道大4名(現役1)、東北大27名(現役21)、宮城教育大1名(現役0)などとなっており、医学部・医学科の合格者数については、自治医科大学に現役・浪人各1で2名合格、福島県立医大が昨年の10名から12名(現役9)に増えるなど、合計15名(現役11)が合格しました。

合格者の多い大学は、東北大、新潟大、県立医大、埼玉大の順となっており、国公立大合格者総数では一八九名(現役一四〇)となりました。

私立大では、早稲田大が昨年の15名から25名(現役8)に増え、慶応大が6名(現役4)であり、東北学院大が7名(現役6)、東北福祉大が現役1名、東北薬科大が4名(現役2)でした。

合格者が多い私立大では、中央大が38名(現役22)、明治大34名(現役25)、東京理科大が22名(現役11)、立命館大が15名(現役10)で、私立大の合格者総数は、昨年の三六四名から四六三名(現役二七三)に増えました。

新年度4月8日(月)に始業式と百二十九期生の入学式を挙行了しました。三百二十名(男一八一、女一三九)の新生が入生が加わり、平成25年度は、24学級九五四名(男五二四、女四三〇)での出発となりました。

来年、本校は創立百三十周年を迎えます。桑野会各支部の皆様にも、何かと御協力をいただくことがあるかと思いますが、仙台桑野会の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

仙台桑野会の益々の発展と会員の皆様の御健勝を御祈念申し上げます、着任の挨拶といたします。

(久保田略歴)福島県田村市大越町に誕生。安積高校(∞期)から東北大学文学部へ。免許教科は、国語・社会。

只見、岩瀬農、安積(S61〜H8年度迄11年間)、安積御館教諭として18年間(S55〜H9)勤務。

福島県教育庁総務課管理主事(H10〜13年度)

白河旭高校教頭(H14〜15年度)

県教育庁県立学校グループ主任管理主事・主幹(H16〜18年度)

棚倉高校校長(H19〜20年度)

学校経営支援課長(H21〜23年7月)

県教育庁教育次長(H23年8月〜24年度)

家族…妻(あさか開成高校養護教諭)、長男と郡山市並木在住。二人の娘は、東京に嫁いでいる。